

人間生活学専攻 塩入輝恵

第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会 国立京都国際会館 (京都市)

H30.1.12~H30.1.14

外来維持透析患者における栄養教育に関する研究

食事バランス・身体活動と生命予後因子との関連と特徴

○塩入輝恵¹ 齊藤克典²、野中博²、岡 純¹

1.東京家政大学大学院人間生活総合研究科人間生活学専攻

2.医療法人社団博腎会野中医院

【目的】管理栄養士・栄養士の必置義務がない医療施設に通う外来維持透析患者における栄養教育のあり方を検討するため、食事摂取および身体活動状況と生命予後因子との関連をみた。

【方法】2017年4月、患者(腹膜透析併用2名含む)で同意の得られた47名を対象に留置き方式による食物摂取頻度FFQgおよび身体活動調査を実施し、栄養量、比率、食事バランス(皿数:sv)、身体活動レベルについて、透析前の血清カリウム 4.97 ± 0.67 (mEq/L)、リン 5.31 ± 1.16 (mg/dl)、HbA1c $5.5\pm 0.8\%$ 、GNRI 91.8 ± 10.9 値との関連をみた。対象は男性33名(70.2%)、原疾患が糖尿病性腎症(DM)15名(31.9%)、年齢 66.1 ± 10.4 歳、透析歴 106.5 ± 108.2 ヶ月、透析導入年齢 57.0 ± 13.2 歳、BMI(透析後体重) 22.3 ± 4.5 kg/m²。全員、リン吸着薬使用有。

【結果】平均摂取量はエネルギー1635.6kcal、たんぱく質58.9g、カリウム1757.7mg、リン809.4mg、食塩相当量8.4g、PFC比率は14.2、29.7、56.1%。動植魚脂肪比率は3.7:5.5:0.8。食事バランスガイド上のsvは主食3.27、副菜2.59、主菜5.86、乳製品0.70、果物0.72、菓子・嗜好飲料4.40。身体活動レベル1.58、消費量2100kcalであった。

生命予後関連因子と有意な相関がみられた項目は以下のとおりである。

血清カリウム値は、たんぱく質比率($r=0.41$)、主菜($r=0.37$)、動物性脂肪比率($r=0.32$)、植物性脂肪比率($r=-0.34$)。

血清リン値は、身体活動レベル($r=0.46$)。

GNRI値は、生活活動安静時消費量($r=0.38$)。

DM患者ではHbA1cが高いほどエネルギー、たんぱく質、カリウム、カルシウム摂取量が低く(いずれも $p<0.05$)、果物摂取量が多い傾向がみられた。

【結論】外来維持透析患者のエネルギー摂取量は消費量に対して低く、食事上では動物性食品の主菜に偏り患者の過剰摂取あるいは控えている部分が明らかになるとともに血清カリウムとの関連もみられた。一方DM患者の特徴が示唆された。